



令和7年6月・・・（号外）

ようげいぼしじちかい

陽迎橋自治会だより NO. 142

いよいよ夏本番！陽迎橋自治会は今年も
子ども支援へ全力で取り組みます



大学生と子どもたちのゴミアートイベント

6月7日（土）大学生と地域の子どもたちの「ゴミアートイベント」が陽迎橋自治会室で行われました。大学生18人に地域の子ども約20人が参加、ゲームをしながら「世界のゴミ問題」について、大学生のお姉さん・お兄さんと一緒に楽しみながら考えました。

陽迎橋の子どもの居場所

「みんなおいでよ 陽迎橋」をご活用下さい

陽迎橋自治会室には毎日たくさんの子子どもたちがやってきます。その居場所ではボランティアの大学生がサポートしてくれます。ゲームを楽しむ子、宿題をする子、自由に過ごします。利用料はいりません。簡単な軽食をとることもできます。ぜひ、ご活用ください。午後3時からの開所です。

夏休みラジオ体操のご案内

恒例の陽迎橋自治会「夏休みラジオ体操」が間もなく始まります。ご家族お揃いで、ご参加下さい。

期 間：7月22日（火）～8月22日（金）の平日、午前6時30分～（約10分間）

場 所：サンエーV21うらにし食品館駐車場（和風亭側の駐車場）



夏休みラジオ体操のリーダーをしてくれる

中学生ボランティア大募集！



ラジオ体操のリーダーで頑張った中学生には、基準によりボランティア表彰と副賞を贈呈します。

詳しくは、陽迎橋自治会（０９８－８７５－９０１１）へお問い合わせ下さい。なお、申込者が多数の場合は、先着30人までとさせていただきます。申込の受付は6月28日（土）より開始します。

みんなが参画する「わった一学校」

～浦西中校区の明るい未来とウェルビーイング～



令和7年度浦西中学校学校運営協議会のみなさん（山城 元校長・学校運営協議会副会長、仲嶺校長、瑞慶覧 地域学校協働活動推進委員、棚原学 前PTA会長・西原青年会相談役、儀部現PTA会長、野見山現PTA副会長、伊波 有限会社フィーチャー企画代表取締役、棚原かおり うらにし商工業者会副会長、そして知花 陽迎橋自治会会長・学校運営協議会会長です）写真にはおりませんが、佐和田 株式会社てだこ代表取締役も学校運営協議会の委員を務めています。



浦西中学校運営協議会では、浦西中学校で学ぶ生徒の夢実現応援隊として学習支援や学校内外での諸行事への参加支援などの取り組みを行っています。陽迎橋自治会でも夏休みラジオ体操での中学生リーダーの育成、陽迎橋自治会夏まつりへの中学生のステージ発表、浦西High祭での浦西マルシェへの参加など様々な取り組みをとおして浦西中学校の生徒の皆さん・地域の子どもたちを支援しています。地域の皆さんのご協力・ご参加をお願いします。

「今回、社会教育部門に『子ども支援』を一つの項目として新しく位置付けた。選考委員会で昨今の『子どもの貧困』を巡る社会の動きを踏まえた提案があり、それを形にした。この分野で受賞した陽迎橋自治会は、自治会活動の中心に子ども支援を位置付け、地域で子どもを育てる地道な活動の積み重ねが評価された。多様な環境で暮らす子どもたちの成長を促す、多様な『受け皿』の一つだ。次代を担う子どもたちに地域社会がどう関わるのか。陽迎橋自治会の活動は、地域住民や父母、学校関係者にたくさんの示唆を与えてくれる。」(2018年3月12日 沖縄タイムス社 武富和彦選考委員長 講評より)

輝く未来へ 支援全力

第55回沖縄タイムス教育賞に、県内の学校現場や地域で優れた研究、実践活動が続ける2氏1団体が選ばれた。受賞者の活動と抱負を紹介する。贈呈式・祝賀会は19日午後6時半から、那覇市の沖縄かり

ゆしアーバンリゾート・ナハで。会費は一般5千円、高校生3千円、中学生以下無料。問い合わせは沖縄タイムス社読者局文化事業本部、電話098(860)3588(平日午前10時～午後5時半)。

子ども育成に地域一丸

■ 社会教育 陽迎橋自治会 浦添市

2007年に発足した浦添市の陽迎橋自治会(知花聡会長)には、年間で平均すると毎日約30人の子どもたちが訪れる。放課後の子ども教室として、三線や琴の指導、学習支援を実施するほか、地域の大人がボランティアで食事を提供する。「いつでも誰でも来ていい場所。そんな雰囲気、子どもたちの心のよりどころになっている。」

自治会設立当初の約10年前、自治会室は昼間はほとんど活用されていなかったという。2011年度から事務員を配置し、平日は毎日開放。土日も個別に子どもたちを受け入れてきた。

知花会長は「自治会活動の中心を『子ども支援』にしたことで、親が自然に集まり、地域とのつながりも広がった」と振り返る。毎月、自治



子どもの居場所づくりに取り組む陽迎橋自治会

会の広報誌を発行し、子ども支援の活動を地域に発信。イベント時には多くの大人がボランティアで参加するようにになった。

夏休みの朝のラジオ体操では地域の中学生が活躍し、準備や運営を仕切る。ボランティアなどで地域に貢献した中学生を表彰する仕組みを作り、地域のリーダー育成にも力を入れてきた。

一方、支援を続ける中で、子どもたちを取り巻く環境の複雑さも増えてきた。いじめや経済的困窮、ひとり親家庭などさまざまな課題を抱えた子どもは多い。きめ細かな支援を目指し、約3年前には子ども支援部会を設置した。

地域の自治会や学校、社協が月1回集まって情報共有し、子どもや保護者の支援の方策、それぞれの役割分担などを話し合う。個人情報管理や守秘義務の徹底には細心の注意を払っている。

「部会が子ども支援のプラットフォームの役割を担い、そこでの話し合いを自治会の子ども居場所づくりに連動させることで、より必要な支援を確実にできる」。知花会長は、学校や社協と連携した取り組みの成果を実感している。

不登校気味だった子が、自治会の行事で友達ができ、自然に学校に通うようになった事例もあった。「支援のニーズはどんどん高まっている」。切れ目のない活動と支援の拡充を目指し、前を見据える。